

長崎大学グローバルCOEプログラム「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」 第1回国際シンポジウムを開催

医歯薬学総合研究科は、1月31日(木)～2月2日(土)、4日(月)の4日間、長崎大学グローバルCOEプログラム「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」の第1回国際シンポジウムを医学部良順会館において開催しました。

開会式では、齋藤寛学長による開会の辞に引き続き、独立行政法人放射線医学総合研究所の米倉義晴理事長、財団法人放射線影響研究所の大久保利晃理事長、笹川記念保健協力財団の紀伊國献理事長、日本放射線影響学会の神谷研二会長、医歯薬学総合研究科の朝長万左男研究科長から挨拶があり、グローバルCOEプログラム「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」の拠点リーダーである山下俊一教授からプログラムの概要について説明がありました。

同プログラムは、長崎大学21世紀COEプログラム「放射線医療科学国際コンソーシアム」の卓越した実績と高い評価に基づき、放射線が人に与える健康リスクを地球規模で究明するものです。すなわち、放射線の負の遺産を克服する方策をうち立て、人類の安全と安心に寄与するための科学的基盤を確立し、統合的な国際戦略研究の推進と、放射線医療科学の人材育成を目的として、平成19年度に採択されたものです。

今回のシンポジウムは、「新学際領域『被ばく医療学』の教育・研究拠点形成に向けて」のテーマで、今後の年次活動の目標と将来計画を明示し、活動内容を国内、旧ソ連邦、アメリカ、ヨーロッパの共同研究機関の研究者と協議するため開催されたもので、海外の研究者20名を含む放射線疫学、被ばく者医療、及び放射線生物学の著名な専門家42名が招聘され、総勢130名を超す研究者が参加し、基調講演や研究発表が行われ、大きな成果をあげました。

(医歯薬学総合研究科学術協力課)



開会の辞を述べる齋藤学長



概要を説明する山下教授



シンポジウム風景 (1)



シンポジウム風景 (2)



国内外招待者による記念撮影